

理科の課題（ドリルプリント7・たしかめプリント①②）について

今回の課題プリントをする前に、少し予習をしましょう。教科書のページを広げて、次の説明を読んでから、課題プリントに取り組んでください。

花のつくりと分類(1) 【教科書 P.20～23 の復習と P.24～25】

花にとって、もっとも重要な部品はめしべとおしべでしたね

（めしべの中の**胚珠**とおしべの中の**花粉**）

植物の種類にもよるが、
基本的には、自分の仲間の
別の花の花粉を受粉したい
（これを『他家受粉』という）

受粉が必要

受粉後、胚珠が**種子**となり、

◎子孫を残す(仲間をふやす)ことができる

◎動けない植物は、仲間をふやすために、
さまざまな工夫をしてきた

これが**進化**

★受粉するための工夫①

めしべの柱頭がベタベタ
していたりして、**花粉が**
つきやすいようにしている

★受粉するための工夫②

美しい花弁や香り、花のみつ
などで虫をさそい、**花粉を別**
の花に運んでもらう⇒虫媒花
(理科資料 P.25、教科書 P.23 参照)

★種子ができた後の工夫③

種子のまわりに**果実を**
つけることで、できた
種子を、**果実と一緒に**
鳥や動物に食べてもら
い、遠くまで移動し、
ふんと一緒に外に出て
別の土地でも、仲間を
ふやすことができる

この進化した花を咲かせる植物を

被子植物(ひししょくぶつ)

◎胚珠が子房に包まれている

⇒種子が果実の
中にできる

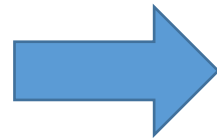


進化する前の花を咲かせる植物を

裸子植物(らししょくぶつ)

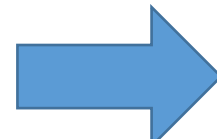
の特徴

めしべはない
(子房もない)



◎胚珠がむき出し
でついている

おしべはない
花弁やみつもない




花粉の入っている
花粉のうだけある

花弁やみつもないので、花粉は虫に運んでもらえない

⇒果実が
出来ない
ので、種子は鳥
や動物に運んで
もらえない

マツの花のつくり



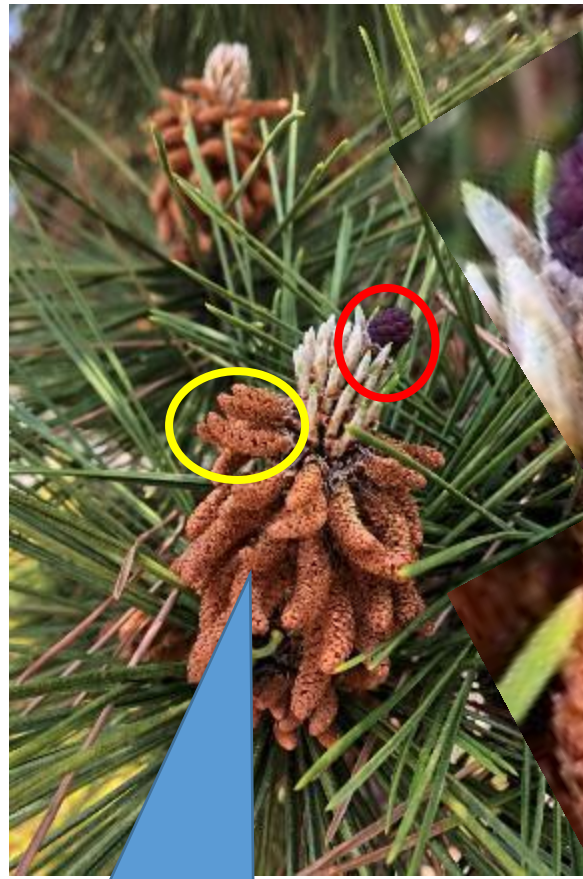
雌花(めばな)
の集まり

新しい枝の先端
に咲く目立たな
い小さな赤紫色
の花の集まり
(りん片(りんぺん))

雄花(おばな)の集まり

新しい枝の根元に
多く咲く茶色の小
さな花の集まり
(りん片(りんぺん))

マツの花のつくり



雄花はたくさんできるが、やがて枯れる

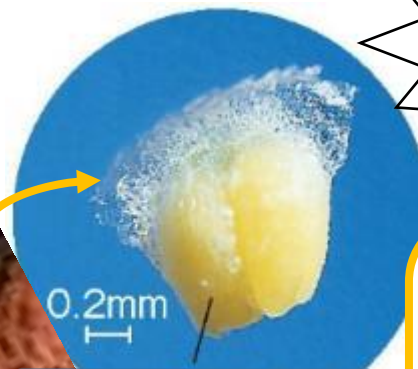


雌花(めばな)の
1つのりん片の
内側

胚珠

受粉後

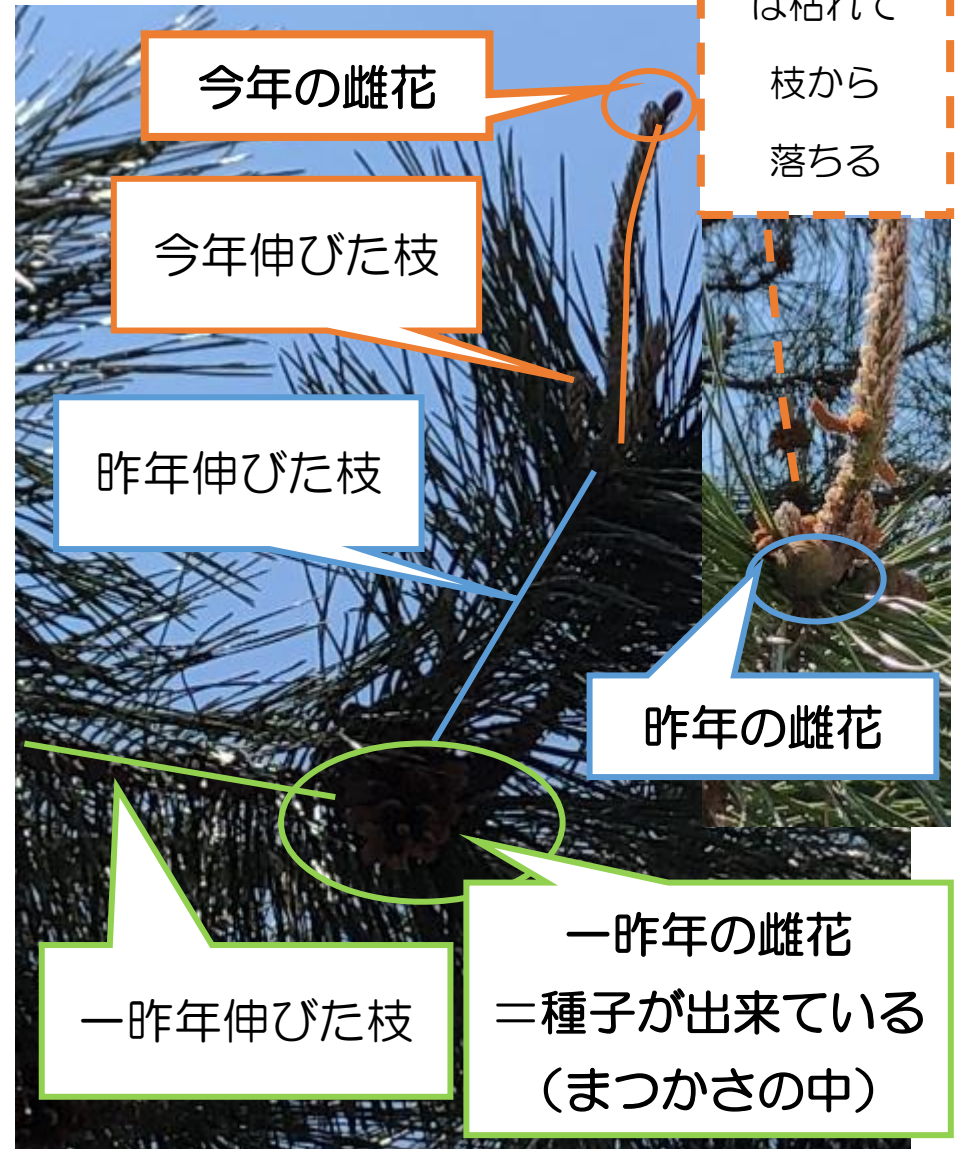
種子



花粉のう
(中に花粉)

雄花(おばな)の
1つのりん片の
外側

マツの花のつくり

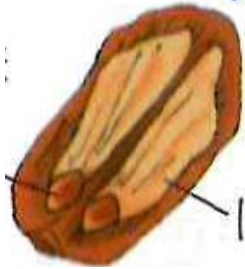


マツの雌花

4～5月頃に受粉すると

(翌年6～7月ごろに受精)

翌年11月頃に**種子ができる** (約2年かかる)



はね

雌花のりん片の中の
胚珠が種子になる
(1つのりん片には、
2個の胚珠があるので、

この中に2個ずつ
種子ができる

*乾燥した日に、
まつかさが開き
風によって
はねをつけた種子が
遠くまで運ばれる

これは、たまたま
飛ばされなかった
種子がまつかさの
中で発芽したもの



裸子植物(らししょくぶつ)のその他の例



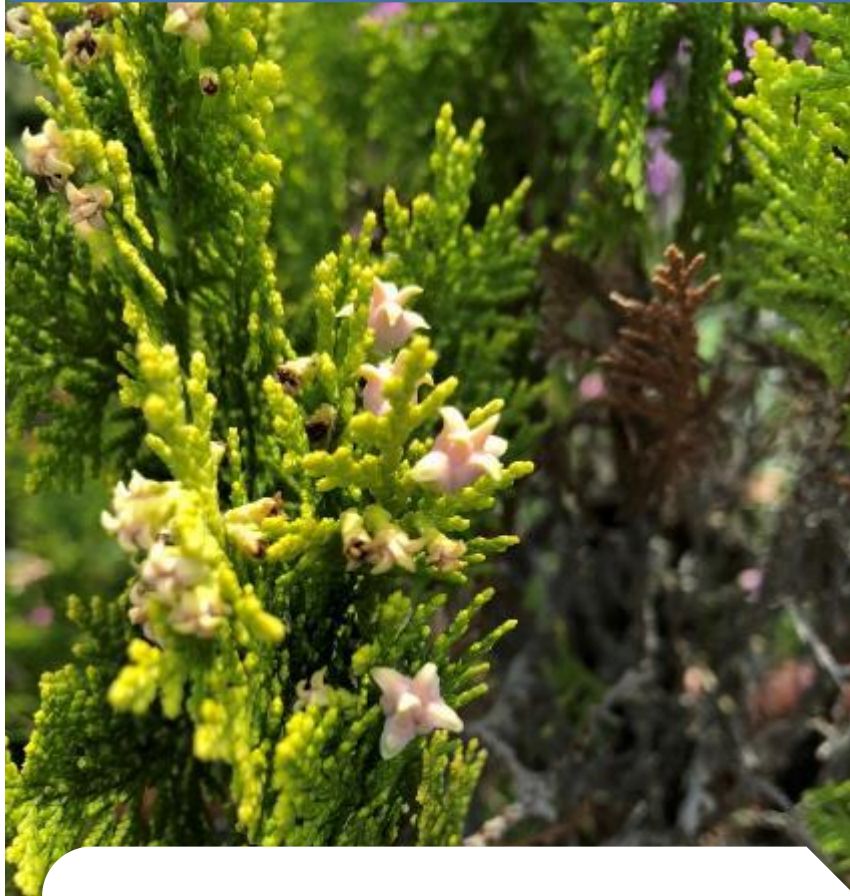
ヒマラヤスギ
(スギ)

裸子植物(らししょくぶつ)のその他の例



ハリモミ
(マツのなかま)

裸子植物(らししょくぶつ)のその他の例



コノテヒバ
(**ヒノキ**のなかま)



ソテツ
(これは雌花)

代表的な例
下の4つは
必ず覚える
こと！

【教P.25】

マツ

スギ

ソヨウ

ソテツ

花のつくりと分類(1)

相違点

裸子植物 ← 子房が ない = 果実が 出来ない

被子植物 ← 子房が ある = 果実が 出来る

共通点

→ どちらも
花が咲く植物
(胚珠がある)
||
・ 種子 ができる

種子植物

Q. 美しい花弁やみつのある被子植物とちがって、

裸子植物は、受粉するために、どのような工夫がされているだろうか？

(ヒント：先生は、毎年、花粉症に悩まされています…)

Q. 他の動物のえさとなるような果実をつくる被子植物と比べて、

裸子植物は、どのような点で進化していないと考えられるか？

考えたことをノートに書いておこう！

では、ドリルプリント7をやってから、たしかめプリント①②、マイノートP.3に取り組んでください。教科書で確認して、漢字も正しく丁寧に書いてくださいね。